



HOA BINHレポート

JVPF 内閣府認証 特定非営利活動法人 日本ベトナム平和友好連絡会議(日越友好連)
NPO Japan Vietnam Peace and Friendship Promotion Council

〒162-0801 東京都新宿区山吹町333番地 辻ビル405 TEL 03-3268-4387 FAX 03-3268-6079
c/o. IFCC.#405, TsujiBLD,333, Yamabuki-cho, shinjuku-ku, Tokyo, Japan TEL(81)3-3268-4387/FAX(81)3-3268-6079
http://ifcc1985.com info@ifcc1985.com



会費/正会員:(個人)5,000円 (団体)50,000円 口座名/日本ベトナム平和友好連絡会議
◎郵便振替 00110-2-188872 ◎三菱東京UFJ銀行・江戸川橋支店(普通)1215225
◎ゆうちょ銀行・〇一九(ゼロイチキョウ)店(当座)0188872

謹賀新年



二〇一四年も皆様と手を携え、一層の活動発展を行っていききたいと思います。

二〇一四年一月吉日
JVPF 役員一同

昨年は日越国交樹立四十周年でいろいろな行事が取り組まれてきました。JVPFは草の根の交流を旨とし活動してきたこともあり大きなことはできませんでしたが、ハノイで開催された「越日関係樹立四十周年式典」には当会の村山富市会長も招待され参加してきました。同時に開催された日越友好活動セミナーで、大西理事長がJVPF発足の足掛かりとなった「ベトナム戦争枯葉剤爆弾被害者支援」の活動について、発表してきました。

活動の基礎となっている枯葉剤爆弾被害者支援のためのベトナム民族アンサンブルコンサートは東北をはじめとした東日本を中心に開催され、ベトナム枯葉剤被害者への支援金とともに東北大地震被災地復興支援金も届けることができました。

同時に、二〇一三年秋のベトナム民族アンサンブルは、特別に長崎くんち祭りにも参加しました。これは長崎くんち祭りに七年毎にベトナムと縁の「御朱印船」山車が出演することから、長崎ベトナム友好協会の企画で実現しました。

二〇一三年十二月には、年の最後を飾り、劇団わらび座のベトナム友好公演「遠野物語―鎮魂と再生の祈り」(東日本大震災復興支援御礼公演)が開催され、JVPFも協力してきました。



2013/10/07 06:42

写真：長崎くんち祭りで諏訪神社前の奉納に参加した桃花グループ

ベトナムアンサンブル公演は 大きな友好と支援の輪を広げました。

二〇一三年の「ベトナム民族アンサンブルチャリティコンサート」は、十月二日の「わらび座」公演を皮切りに、山形・白鷹町、国分寺市、諫早市、長崎市、仙台市、青森市、奥州市、東松山市、新潟市、金沢市、富山市、富土見市、相模原市で、都合、十三回のチャリティ公演、一回のライブ、一回の友情公演（特別支援学校）が開催されました。

フクシマ放射能汚染事故の影響が、制御不能化学物質の一つである枯れ葉剤爆弾被害への関心も、例年になく高いものがありました。二〇一三年はまた日越国交四十周年ということもあり、有意義な相互交流として成功裏に終えることができました。来場者は約二七五〇人、チケット購入協賛者は約四五〇〇人に上りました。チャリティコンサートの他、各地の友好団体との交歓会、自治体首長への表敬など行い、民間の友好大使としての役目も果たしました。

七年ぶりに「長崎くんち祭り」の日越の交流を模した「ご朱印船山車」に参加したことも特筆すべき活動となりました。

益金は、北部タイピン省・リハビリ施設での自立支援プロジェクトの「タイピン・ボランティア」「刺繍絵の買上げ」支援に充てられる他、障害者家庭慰問、被害者追跡記録DVD制作費一部などに充てられます。

また、益金の一部三十万円は、ベトナムのアンサンブル「桃花」グループから「東日本大地震被災者支援・フクシマ原発事故被害者支援」として関係機関に寄付されます。

長崎公演 駿馬のよびに颯爽と

あけましておめでとうございます。みなさまにおかれましては清々しい新年をお迎えになり、気持ちも新たにベトナム交流への意欲を高められていることと存じます。

本年は午年です。私たちも目的に向かって駿馬のように颯爽と駆け抜けていきたいものです。

さて、昨年のわたくしどものベトナムとの交流実績をお話いたしますと、昨年は、折しも十月七日に開催された長崎秋

の大祭「くんち」の山車（だし）として、ベトナムゆかりの「御朱印船」（ごしゅいんせん）が奉納される七年に一度の年に当たりました。この歴史的ともいえるお招きし、同時に開催していたベトナム民族アンサンブルコンサートのメンバーともども山車の奉納にご参加いただき歴史に根差した意義ある交流を行うことが出来ました。

また、長崎県知事、長崎市長へ表敬訪問を行い今後ともベトナムとの交流が両者にとって文化、経済等の発展を見据えたとき、いかに有意義なものであるのか

を再認識し、未来にむかって手を取り合っていくことを誓い合いました。



ご朱印船山車に乗っている日本人の花婿役、ベトナム人の花嫁役の子供と桃花メンバー

いました。

昨今のアジア情勢を見る時ベトナムとの交流進化は無くしてはならない最重要課題のひとつであり、我々の活動はまさに時宜を得たものと言えます。

しかし、この交流進化はひとりでは決して成しえるものではありません。仲間力が是非とも必要です。きめ細やかな連携と情報交換等により質の高い意義ある交流が可能となるのです。

さあみなさん、本年もお互いしつかりとスクラムを組んで日本とベトナムとの新たなステージに向けて駆け出しましょう。駿馬のごとく。

（長崎ベトナム友好協会理事長

富岡 勉）

青森公演 広がった賛同の輪

二〇一三年ベトナムアンサンブルコンサート青森公演は、前回の青森県の公演から一〇年たった中で開催され、しかも取り組みは参議院選挙が終わったあとの八月にスタートし、実行委員会が結成されたのは九月上旬と公演一カ月ちよつと



盛り上げる会場の模様

で前のスタートでした。今回は、自治労県本部、県平和労組会議、社民党県連合やアイ女性会議でスタートした実行委員会は一般に広めるためにどうすればよいかとの議論の中で、まずは実行委員

長を一般に広めることが必要とのことから学者文化人の皆様に当たった結果、ベトナムからたくさん留学生を受け入れている青森中央学院大学の内山清教授にお願いすることとなり、その内山先生から「青森ベトナム交流協会」の会員団体・個人の皆様への呼びかけ、さらには青森市文化団体連絡協議会への皆様への呼びかけなど賛同の輪を広げる努力をしてきました。

その結果、公演当日のお手伝いとして青森中央学院大学ベトナム交流協会・青森市文化団体連絡協議会の皆様の参加をはじめ、二七〇人の参加がありました。さらにベトナム留学生の手伝いや青森市文化団体連絡協議会山内会長の公演前挨拶なども公演に花を添えました。

公演終了後のアンサンブル団体との交流会は、ベトナム留学生もたくさん参加し、大いに盛り上がりました。

仙台公演

被災者も招待し開催

十月九日(二〇一三年)、「ベトナム枯葉剤爆弾被害者支援・自立支援プログラム、東日本大震災被災・復興支援」をコンセプトに、「ベトナム民族アンサンブルチャリティコンサート仙台公演」が仙台市太白区文化センターで開催されました。宮城県内では六回目(仙台市は二回目)となる公演でした。

この公演の成功へ向けて、昨年六月に宮城県平和労組、自治労、社民党やこれまでJVPF友好訪問団としてベトナムを訪れている方々や在仙ベトナム人日本語学校関係者等が参加して実行委員会を設立、準備を進めてきました。そしてチケットの販売活動の他、公演催行の趣旨に東日本大震災・福島原発事故からの復興支援があったことから、仮設住宅で暮らす被災者の方々への「招待状」の配付の活動などを取り組みました。



閉会の御礼挨拶する佐々木副実行委員長

当日は二百名を超す参加者があり、「桃花(ホアダウ)」による民族舞踊、民族楽器の演奏などに陶醉し、成功裡の公演となりました。終了後は出演者と本行委の交流会も開かれました。

金沢公演

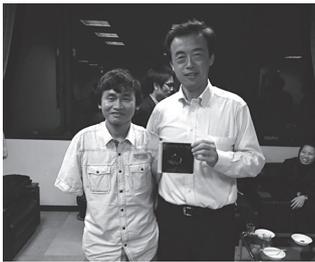
感動をもって幕を降ろした

ベトナム民族アンサンブルコンサートは、私が事務局を務め、一九九八年に初めて金沢に招聘し公演を開催してきました。その後、二〇〇五年の公演以来八年ぶりの公演になりました。今回の公演は十月十六日(二〇一三年)、石川県教育会館ホールで開催。

今回の舞台は、洗練され、ベトナム戦争下を戦い、生き抜いた民衆の心が織り込まれたものでした。

中でも、片腕のギタリスト、ゲエン・テ・ビンが奏でるチン・コン・ソンの嘆きの歌には、深い感銘を受けました。彼は、父をベトナム戦争で失い、間もなく母を病気で失いました。親類に引き取られたビン少年は、農作業で水牛から落ち、右腕を骨折しましたが、病院には行けず、片腕を失うことになったとのこと。

彼を支えたのは、ギターであり、ベトナム戦争時、人々を励ましたチン・コンソンの音楽でした。彼の奏法は、驚異的です。左手の指を縦横に駆使し、弦を抑え、メロディを爪弾きます。和音すら、響かせます。哀切に心に染み入ってきます。



ビンさんとビンさんのCDを手に

苦労に苦勞を重ねた彼は、故郷で、身寄り無き子どもたちの学校を開いているといいま

◆◆◆ 掲示板 ◆◆◆

●例年、十二月に実施してきていたJVPF訪問団を一月二十一日から実施します。フート省少数民族出身高校生奨学金授与、新規ラムドン省少数民族出身高校生奨学金のほか、ラムドン省、ビンフック省で枯葉剤爆弾被害者状況視察、枯葉剤爆弾被害者家庭慰問を実施します。報告は次号

●ベルカント日越交流が五月九日、十日、ホーチミン市で計画。これはオペラ歌手の角田和弘さん(二〇一二年九月に実施された明治大学マンドリン倶楽部ハノイ公演のゲスト)がホーチミン市国立音楽院と協力し計画しているもの。JVPFはこの橋渡しを行い実施に協力しています。

●例年五月に実施してきた村山学校の日本語修学高校生修了式とそのための訪問団は、今年度は該当者がいないため実施されません。

●今夏、埼玉JVPFは中部クアンナム省へ訪問団を計画。

●今夏、例年実施してきました枯葉剤爆弾被害者支援「タイビン・ボランティア」が八月十九日(火)から計画。詳細は後日。

●「ベトナム民族アンサンブルコンサート二〇一四」が十月に計画。今年度は九州、中四国、近畿、東海、関東のコースで準備中。開催へのご協力をお願いいたします。

●枯葉剤爆弾被害者追跡記録DVD製作の取材を計画。

映像記録作家の鈴木伊織さんの協力を得て、五年間の定時に追跡記録を続けてきています。これまで『歪められた遺伝子』(二〇〇三年製作)、『それでも私は生きてゆく』(二〇〇八年製作)の二本のDVDを製作しました。昨年が予定年度でしたが、経費の準備が整わずに今年になってしまいました。

◎JVPF第七回総会は五月二十四日(土)午後三時～四時三十分

◎二〇一三年度JVPF第二回理事会は五月二十四日(土)午後二時～三時

※いずれも、東京・ルポール麹町・会議室(予定)

※正式な案内は一か月前ごろに送付予定。

(実行委員会事務局 森 一敏)

マジック ～お札&コインなどを使い、簡単種なし手品も披露～



半分に折ったお札の上にコインをのせ、広げていくと…



恒例、しもマジック

フィナーレは、太(?)交流会!

盆踊り ～「炭坑節」♪掘って～掘って～また掘って♪～

ベトナム人はみんな浴衣を着て大喜び。まず、お互いに歌を披露。私たちは「ふるさと」を歌いました。そして、盲目の少女は今年も「バスごっこ」を歌ってくれました。その後、みんなで炭坑節を踊り、楽しい時間を過ごしました。



♪炭坑節♪

盲目の少女の歌声を、また聞きました

戦争がなく、すべての人が互いに助け合う社会が実現されればよいとは思いませんか? 今回8月17日～22日のタイピン(ベトナム)ボランティアに参加してきましたので、報告したいと思います。

タイピン・ボランティアは、枯葉剤被害者のリハビリ施設でのボランティアで、私は①ベトナムは好きな所の1つである②平和に関する活動に関心があり③リハビリの仕事をしている、といったことで「私のための活動」と勝手に思い、沖縄平和行進の次はこれだと、内示で異動なしが決まった3月下旬に「夏休みで行きます宣言」しました。

ベトナム国内タイピン省(県)はハノイから南東方向に車で2時間程度のところに位置しています。海(トンキン湾)へ向かう感じです。今回の参加者は4人でした。

リハビリ施設に入所している対象者は20人程度で、通常3か月程度の入所となっていると伺いました。症状は詳しくはわかりませんが、精神機能障害、内臓の障害、目の障害などに見えました。いわゆる寝たきりに近い状態の方はいなく、歩ける方たちでした。

ボランティアでは、交流し楽しい時間を共に過ごすようにと、私は「魚釣りゲーム」をしました。

魚は、紙にクレヨンで絵をかいてはさみで切り、口

元にクリップをつめました。釣竿は、割りばしと糸の先にマグネットを縛り、磁石で釣り上げるようにしました。また、魚の裏に数字を書き、景品付きにしました。

実際はかなり盛り上がり、皆を制するのが大変なくらいでした。入所者の皆さんは普段枯葉剤被害者として大変な思いをされていると思います。ゲームをしたひとは、そのことを忘れられたのではないかと思ひ、意義のある活動ができたのではないかと思ひました。

そのほか、ほかのメンバーによる、マジック、体操(ヨガ)、浴衣を着ての盆踊り、各国歌交換を行いました。時間が足りず、やり残しがあった感じです。

今回の活動をきっかけに、JVVPF(日本ベトナム平和連絡会議)を通じ、ベトナムとの交流と、枯葉剤被害者を中心とした支援活動を行っていこうと思ひます。最後まで読んで下さりありがとうございます。ここまで読まれたあなたは、私のことを知っているから? 何となく? それとも興味があるから? もしも興味をお持ちの方がいましたら、話ができれば嬉しいです。いずれにせよ、お付き合いいただいてありがとうございます。

(2013・9・1記)

新潟・中央病院リハビリ科 高橋和宣



※参加してみませんか?
2014年8月も計画中です。
ご希望の方には詳細ご案内します。

ベトナムの米づくりを視察して

新潟県職労 菊田 仁

例年実施しているタイピン省の枯葉剤リハビリ施設での滞在ボランティアは二〇一三年八月十九日、二十日実施されました。新潟の菊田さんはキューバで稲作技術支援を行っており、キューバがベトナムから米を輸入していること、ベトナムの稲作技術者がキューバで技術支援を行っていることから、今後の参考のためベトナムの稲作事情をタイピン・ボランティアの合間を縫って見聞されました。

このツアーに参加した動機は、支援しているキューバの米づくりに必要な機械を見ることでした。ベトナムは世界第二位の米の輸出国であり、キューバへも多くの米を輸出しているとともにキューバ国内で栽培技術や機械整備の支援を行っています。

このツアーの目的であるボランティア活動外にもかかわらず、日程の中に農村視察を組み込んでもらいました。

八月十九日、タイピン枯葉剤被害者リハビリセンターでのボランティア活動終了後、農村視察(米づくり)先であるホー村を訪問しました。タイピン省はベトナムでも米の主産地であり、鎌田さんから第二次世界大戦時に日本軍が種籾を略奪したため、多数の餓死者がでた地域だとのことでした。

ホー村の人民委員会によると農地は三百七十ha、人口は約一万人、労働人口は約五千人と若い労働者が多く、六割が農民。また、生産額は千六百億ドン(日本円で約八千万円)所得は四百八十億

寄り添い、そして笑顔を

2013夏／タイビン・ボランティア報告

記：神馬道子

タイビン省にある枯葉剤爆弾リハビリセンター（ベトナムアンサンブルチャリティコンサートの益金：1000万円で2004年開設、開所）。2013年の夏も8月19日と20日の2日間、入所の方々といろいろな活動を通して心の交流を深めました。

ラジヨガ ～みんなで体をほぐし、リラックス～



一昨年から始めたラジヨガ。

今年は、新しい方が何人もいたので、ひとつひとつのポーズを説明しておこないました。

2日目の始まりにも、このラジヨガをおこない、体をほぐしました。

魚釣り大会 ～竿は割り箸と磁石。魚にクリップをつけて、釣りあげました。～



まずは各自で、
思い思いに魚を作成



出来具合は上々！

ラフターヨガ

～たくさん笑って

心も体もすっきり～

「ラフターヨガ（笑いヨガ）」は笑いヨガの呼吸法を組み合わせたエクササイズ。笑うことで多くの酸素を自然に体に取り入れ、心身共にすっきりし元気になることができます。だれでもすぐにでき、冗談、ユーモア、コメディに頼らない「ただ笑うだけ」の画期的なエクササイズです。1995年にインドの医師マダン・カタリヤと、ヨガの熟練者である奥様、マチュリー・カタリヤとともに、たった5人で始まったこの運動は、今や世界73カ国以上に広がっています。もちろんベトナムにも。



さあ、いよいよ魚釣りの
始まり



タイビン・ボランティア参加のメンバーと（左端：菊田）

なお、訪問した時期は雨季で稲が水に隠れている田んぼも多くみられ、いもち病の防除を一齐に行っていました。（8ページ下段に続く）

最後に村の精米・製粉所でした。用途に応じて米以外のトウモロコシや大豆等も粉挽きをしているようでした。

田んぼの単収は1ha当たり三百六十kgとけっして多くないですが、二期作により生産量を確保しているように感じました。

最初に見せてもらったのは日本という米屋で、米を仕入れて、精米で販売する所。初1kg当たり八千ドン（約四十円）で仕入れて、精米1kg当たり一万一千ドン（約五十五円）で販売しているとのことでした。性能よい精米機を使用しており、きれいに精米してありました。

次に見せてもらった所は焼酎を作っている酒造所。精米を発酵させ、絞りカスは豚のえさ、豚の排せつ物を発酵させ、そのガスを燃料に活用しており、循環型農業を行っていました。

（約九百二十万円）。米以外生産物は工芸とのことでした。最初に見せてもらったのは日本という米屋で、米を仕入れて、精米で販売する所。初1kg当たり八千ドン（約四十円）で仕入れて、精米1kg当たり一万一千ドン（約五十五円）で販売しているとのことでした。性能よい精米機を使用しており、きれいに精米してありました。

活動

日越国交四十周年を記念する

クアンナム省 四軒の「仁愛の家」訪問

埼玉JVPFの「日本・ベトナム国交樹立四十周年記念の旅」(二〇一三年七月実施)参加者は十一名。石山博・団長が各所で適切なありさつをされました。詳細については平松トモコ著「ベトナムレポート」をご覧ください。

埼玉JVPFがクアンナム省の枯れ葉剤被害者支援を始めたのは二〇一一年八月二日のことです。被害者の家庭を訪問し、詳しい聞き取り調査をした結果、多くの被害者が一番必要としているものは「家」だということが判明。その年の訪問団二〇名が一人一万円を拠出。私の著書『世界を動かした女性グエン・ティ・



支援金で作られた「仁愛の家」と訪問団

ビン』の売上げ金とカンパ四千ドルと合わせ六千ドルがビン女史の「ベトナム平和と発展基金」を通じてクアンナム省友好連合

委員会に届けられ「仁愛の家」建設が始まりました。

更に二〇一二年の支援金六千ドルにベトナム政府、本人親類縁者の資金を合わせて三軒の「仁愛の家」が建設されました。形に残る支援活動として四軒の「仁愛の家」が造られたこととなります。

今年(二〇一三年)の訪問団は五千ドルの支援金をクアンナム省の友好連合委員会に届け、枯れ葉剤被害者とも懇談しました。被害者訪問には友好連合委員会と被害者同盟(VAVA)の職員も同行し、懇談内容を聞いていましたので、今後の支援施策に生かされるものと期待しています。

日本ベトナム国交樹立四十周年に当たり、ベトナム政府ではさまざまな記念行事を催しましたが、クアンナム省とダナン市では「文学交流会」を開催。更に歓迎の昼食会にも招待して下さいました。これらの交流を計画して下さいましたクアンナム省とダナン市に心からお礼を申し上げます。

尚、グエン・ティ・ビン女史の回顧録「家族、仲間、そして祖国」日本語版とベトナム文学同盟との合同詩集『ベトナム独立、自由、鎮魂詩集』はコールサク社の鈴木比佐雄氏から、ビン女史とベトナム文学同盟に直接手渡され、寄贈されました。

(埼玉JVPF 副会長 平松伴子)

ハノイで日越四十周年記念行事開かる 村山富市JVPF会長ら参加

昨年九月二十日、ハノイに於いてベトナム友好連合委員会主催の友好行事が開催されました。十九日ハノイに到着したJVPF一行は、二十日、越日国交四十周年記念式典、その後、友好活動に尽力された個人、団体へのベトナム友好連合委員会からの「友好勲賞及表彰」授与式に参加しました。

JVPFからは、佐藤晴男副会長、大西繁治理事長、及川光行事務局長が授与。同時にJVPFとして、友好活動に尽力された友人や個人を推薦し、以下の方々が友好勲賞を授与されました。



団体表彰を受けた埼玉JVPF、わらび座、広島HVPF、(社)時遊人の代表ら



インタビューを受けるJVPF村山会長



ハー・ティ・キェット共産党書記局員(中央:女性)ら多くの要人が鑑賞された

劇団「わらび座」がハノイ、ホーチミンで友好公演

創立六十二年の伝統を持つ劇団「わらび座」は日越四十周年記念の二〇一三年十二月二十一日、二十六日、二十七日、ハノイとホーチミン市に於いて友好公演を行いました。村山富市市長へ協力要請がなされたこともありJVPFは公演実現に協力してきました。

劇団「わらび座」はベトナム戦争中の五十年前、ベトナムで友好と連帯の公演のおこなっており、永年のベトナムとの友情が復元されたかのような公演となりました。公演以外にもベトナムの若者へ

日本の踊りの教える交流会や、永年交流関係のあるベトナム中央歌舞団や国立ボンセン歌舞団との交歓会など、日越の文化を通じた絆を深める意義ある友好公演となりました。

今回の公演は、日越40周年記念と同時、東日本大震災支援への御礼公演として「鎮魂と再生への祈り」と題する公演を行いました。

【わらび座とは】

1951年創立。民謡の宝庫と呼ばれる秋田県仙北市に劇場を置き、7つの公演グループで年間約1200回日本各地で公演。アジア、ヨーロッパ、北米、南米など海外公演も多数。

【わらび座とベトナムの交流について】

わらび座は1963年、当時のベトナム民主共和国に11月9～22日滞在し、ハノイ、ハイフォン、ホンゲイの3ヶ所で6回公演を行いました。滞在中、多くのベトナムのみなさんとの出会いがありました。11月11日、ホー・チ・ミン大統領と接見。12日、ハノイ劇場でのわらび座公演にファン・バン・ドン首相はじめ労働党と政府の各指導者および各国大使が来場。また公演以外にも、ハイフォン第6小学校を参観し、子どもたちが南ベトナムの踊りで歓迎してくれたことも印象的でした。ベトナム戦争が悪化していく中、わらび座はベトナムの人々をこめた作品を1965年から全国で公演し、ベトナムが解放されるまで続けました。このことは、日本の芸術団体の中でも特別な実績となっています。ベトナムから歌舞団や民族音楽団、文化代表団などが訪日するたびに交流し、ベトナムはわらび座にとって「兄弟」のような存在です。

四十周年を記念し、クアンチへ訪問

医療器具と一万二千羽の折鶴を届ける

日越四十周年を記念して、井原修副会長を団長に7名の訪問団が二〇一三年十月二十八日～十一月三日にかけベトナムを訪問。クアンチ省人民委員会を表彰しました。

井原団長はクアンビン省（クアンチの隣）出身の「ベトナム救国の英雄」ヴォー・グエン・ザップ將軍の死去に対する哀悼の言葉に続き、枯れ葉剤と原爆という戦争被害の共通性から、平和創造のため交流を深めましょうと挨拶。グエン・ドク・チン副主席は、奨学支援や少数民族村への医療器具支援などに触れながら、各分

野で進む交流活動への謝意とともに改めて広島訪問の意向が表明されました。今回も、少数民族村の診療所への医療器具支援として血圧計を五セット贈呈するとともに、ベトナム戦争最大の激戦地クアンチ古城の慰霊塔に献げる一万二千羽の折鶴を届けました。

五年間で一〇〇名へ、奨学金支援

二〇〇九年に始めた「HVPF教育支援プログラム、クアンチ省少数民族寄宿高等学校へ一〇USD支援（月）」は、二〇一三年九月、新たに第五期奨学生二十名が選抜され、講堂を埋めた民族衣装の三〇〇名の在校生と教職員、クアンチ市の教育関係者を前に贈呈式が行われました。東広島市内をはじめ県内のサポー



民族衣装の奨学生たち

ターから寄せられた一二〇名（年額）の奨学金を、第三期～第五期奨学生六十名一人ひとりに贈りました。リン校長から、「HVPFの支援でこれまで一〇〇名の子どもたちがこの学校で学ぶことができ、第一期、第二期、四十名が

優秀な成績で師範大学や専門学校などに進んだ。この子どもたちは日本、広島との友好の架け橋になる」と述べられました。続いて奨学生から、「友好協会の皆様、はじめまして。私はタンと言います。三年間、心のもった貴重な奨学金をいただき、たいへん感謝しています。私たちは寮でも協力しあって生活し、勉強もすっかりやっています。みなさんの気持ちのこもった奨学金を役立てることをお約束します」とお礼が述べられました。（広島ベトナム平和友好協会 事務局長 小野悟朗）

広がる

友好と交流の歩み

ハノイ大学日本語・文化・教育交流センター開設

福岡JVPF事務局 高木豊彦

二〇一三年八月二十九日、ハノイ大学に日本語・文化・教育交流センターを開設しました。開設式には、ハノイ大学側から二十名、福岡から十五名が参加し、福岡大学国際交流センター長（二〇一三年協定校締結）も来賓として参加しました。このセンターは、二年前から構想され、ハノイ大学とJVPF福岡の交流活動の一つとして、構想されてきました。開会式に先立ち、日本側から音楽演奏を行いました。

続いて、ハノイ大学のルオン学長から「このセンターは文化や言語の交流だけ



書道実演に興味津々で見入る

めベトナムと日本の交流は益々発展してより親密に、より有益なることを願っています。」とあいさつされました。

日本側を代表して交流センター開設の準備に対する感謝、そして、今後の交流センターを運営するにあたっての決意等を述べました。

山王神社の楠の木を祈念植樹

除幕式の後、長崎原子爆弾投下により壊滅的な打撃を受けたが、見事に再生した山王神社の楠の木を苗をセンター開設の記念と両国の平和を願う気持ちをこめて植樹しました。

また、開会式終了後は、お祝いの昼食会が行われ、日本側から南京玉すだれを披露しました。

「日本の書」展示会と書道実演会も

交流センター開設記念として、八月二十九日～九月五日まで平嶋一臣先生の書道展「日本の書」を開設しました。九月四日には、書道デモンストレーションを行い、多くのハノイ大学の学生が参加し、交流を深めました。

活動の拠点として展望

八月二十九日に交流センターを開設して、早速、日本から当センターに訪問がありました。

福岡県留学生サポーターセンターのみなさん、愛知文教大学の先生方、国学院大学横山ゼミの学生のみなさん、高知大学国際交流委員会のみなさん方です。国学院大学の学生さんたちは、三泊四日のゼミ旅行を計画し、ハノイ大学の学生と交流をしました。

今後活動拠点として発展するよう希望しています。

村山記念JVPF日本語学校の近況

●協和化学工業株式会社から寄付金が

村山富市記念JVPF日本語学校（ホーチミン）は二〇〇七年に、日本語修学高校生奨学金を基礎に開校しましたが、通算七年間続けられた奨学金、育英金による支援プロジェクトは二〇一三年八月で終了しました。

現在、一般社会人コースによる収益で運営されていますが、運営はまだ厳しいものがあります。今回の協和化学工業株式会社（代表取締役：松島 慶三、本社：香川県坂出市）からの村山日本語学校の運営に対する寄付金の申し出は、ありがたい支えになりました。これは協和化学工業株式会社が当会の村山富市会長との御縁からJVPF日本語学校に趣旨に賛同していただき実現したものです。単年度七十万円で通算三カ年を予定。

●少年少女宮殿で「日本語教室」開講

村山日本語学校はホーチミン市のホーチミン青年団と協力し、日本と日本文化への関心を広げるため青年団が運営する少年少女宮殿で、小学生を対象にした無料の「日本語教室」を開講。これには村山日本語学校修了生で大学日本語コースへ進学した学生たちがボランティアで協力。毎週、少年少女宮殿で週末に二クラス四十人で開講されています。

●JICAより日本語講座を委託

卒業後日本での就労を考えている専門短期大学学生に日本語を教えるJICAのプロジェクトで村山日本語学校が選定・業務委託され三クラス八十人の学生に日本語を教えています。

ラムドン省でも少数民族出身高校生奨学金支援が

JVPF鹿兒島支部 野崎隆道

本年度（二〇一三年九月より）よりJVPF鹿兒島支部では、ラムドン省の少数民族高校生への奨学金支援を行うことになりました。当面、十名の高校生を支援します。今までウオータービジョンを通じてプト省の少数民族高校生を支援してきた経験もあって、JVPF事務局の援助をもらいながら、そのメンバーを中心に打ち合わせを重ねてきました。

何人かのメンバーは現在でもプト省の高校の卒業生と交流や支援を続けています。鹿兒島では大学や日本語学校の留学生と、また最近では鹿兒島で就労しているベトナム人実習生との交流・支援も行っています。このことも取り組みの大きな力になっています。今後、奨学金支援の活動を定着・発展させるためにも隣接各県からのサポーター応募に御協力をお願いします。

※問い合わせは、
Email: smosaki@io.oune.jp
FAX: 099-1263-6732 (野崎宛) まで。

「ラムドン省とは」中部高原地帯にあり、省都ダラットは避暑地として、フランス植民地時代に開発された。ホーチミン市より空路四十分。ベトナム戦争中には枯葉剤爆弾が散布され、一九八〇年代まで住民に深刻な健康被害が出たことで知られている。その後の調査で枯葉剤爆弾に含まれるダイオキシン類が原因であることが判明した。

現在、風光明媚なダラットはベトナムの若者の新婚旅行のメッカともいわれ、隔年で「お茶博」「花博」も開催されている。二〇〇七年にはJVPF主催で「日越友好マラソン」も開催された。

民族構成はキン族、コホ族、ヌン族、バーナ族



(5ページからの続き)

ベトナムはドンモイ政策でなんでも自由であると聞いていましたが、その通りで米の販売も肥料・農薬の購入も自由でした。

キューバで役に立つ精米機・製粉機は各種メーカーもあることがわかり、後で検討し、注文をしたと思います。それにしてもベトナムはモノが豊富で都市は活気があります。しかし、土台は農村の勤勉な農民のように思われませんでした。

最後にタイピン枯葉剤被害者リハビリセンターへの支援は個人でもできることがあるようなので考えてみたいですね。